

## 天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【第5回上流部会】 議事要旨

■日 時：令和2年9月17日（木）13：30～15:30

■場 所：天竜川上流河川事務所・WEB会議

■委員出席者（敬称略、五十音順）

石神 孝之、辻本 哲郎（委員長）、戸田 祐嗣、中村 圭吾、平松 晋也、福島 雅紀、  
溝口 敦子、山越 隆雄

■議事次第：

1. 開会挨拶
2. 規約の確認及び委員紹介
3. 議事
  1. 天竜川流砂系総合土砂管理計画の策定に向けた取り組み
  2. モニタリング計画の検討
  3. 土砂管理の連携方針
4. 今後の予定
5. 閉会挨拶

■議事概要

1. 開会挨拶
2. 規約の確認及び委員紹介
3. 議事

1. 天竜川流砂系総合土砂管理計画の策定に向けた取り組み

主な意見等 ●細粒土砂が供給されることで河床が低下することはあり得る現象である。流送能力に対して、供給土砂量が不足すれば河床が下がる。ただし、実現象がどうなるかはモニタリングを実施し、モデルの改善が必要と考える。

●小渋ダムの土砂バイパス運用による効果、影響把握のための天竜川本川のモニタリングは、計測のタイミングや調査項目等、小渋ダムのモニタリングと整合させることが必要である。

●現在のモデルの考え方、内容について明確に示すこと。

2. モニタリング計画の検討

主な意見等 ●前提条件として領域を分割するもとなっている情報（河床勾配、河床縦断形状等の河道特性）を示すこと。

- 現行の領域区分はある程度類型化する条件で分けているが、一つの類型を見るときにもさらに小区分した方がよい場合があるかもしれない。領域区分の根拠を再度整理しておくこと。
- 河床変動の観点では合流直後が不安定箇所になる。代表地点はその地点の環境も把握した上で定義づけ、河床変動計算結果、調査結果も踏まえ必要に応じて見直すこと。
- モニタリング方法について、人工衛星等の新しい技術を活用することも有効であるため、追加について検討すること。
- 河道管理シートについて、土砂管理の観点から本川側でわかりやすい情報を蓄積する必要がある。
- 比較的大量の土砂流出がある洪水が生じた場合、次発の洪水によって初発の洪水による影響がわからなくなることを無いうように同年内でも複数回実施する等、考慮しておくこと。
- 全体把握は5年に1回の測量でよいが、影響を押さえる必要がある区間は注意深く捉える必要がある。どの箇所、どの区間を見るべきか明確にできるとよい。
- モニタリングの時間スケールが見えない。短期でみるもの、長期で継続的に見るものがある。見える化について検討すること。
- 生物環境調査の指標はわかりやすく、選定された種も問題ない。
- 自然環境関連のモニタリングとしては、環境DNA（今後、水辺の国勢調査の方法として取り入れられる予定）、石礫の露出高によるアユの生息環境評価、水辺の国勢調査（利用実態調査）などが考えられるため、モニタリング項目に追加する必要があるか検討すること。
- 物理環境関連のモニタリングとして、谷底平野河道領域の維持掘削量、岩盤の露出状況を定点カメラ撮影、流木発生量などが考えられるため、モニタリング項目に追加する必要があるか検討すること。【福島委員】
- 土砂生産領域の崩壊地の変化量の確認には省力化を図り、持続的にモニタリングできるように衛星画像を活用するとよい。また、流砂量の項目に、水位の把握を追加すること。
- モニタリング結果をどう評価してどうフィードバックいくのかを、考えていく必要がある。

### 3. 土砂管理の連携方針

- 主な意見等
- 連携という言葉に違和感がある。情報共有でよいのではないか。
  - 上流から流れていった土砂が、遠州灘まで流れて行くことを意識しておくことが大事である。

### 4. 今後の予定

### 5. 閉会挨拶

以 上